

術後の痛みと BS-POP の関係性

○小林 晃子、岡田安貴子、沼田よし江

岩井整形外科内科病院

【はじめに】脊椎手術後の痛みは、何らかの精神的な問題が合併し、心理・社会的因子が治療成績や患者満足度を低下させると報告されている。当院では、2009年から BS-POP を導入し、術後腰痛が長期化する患者に対しての診断・治療の有用な判断ツールにしている。

今回、術前・後の腰痛と BS-POP の関連性について調査をした結果を報告する。

【方法】脊椎手術後3ヵ月経過した患者にアンケート調査

・痛みの評価は腰痛治療判定基準 (JOA スコア) の自記式部分 (23点) を使用

【結果】6月手術件数94名中、術前 BS-POP が15点以上: 60/94 (約64%)

アンケート回収率: 33/60 (55%)

術後 BS-POP が15点以下になった患者: 20/33 (60%)

術後 BS-POP が15点以上もしくは術前と変化ない患者: 13/33 (39%)

【考察】慢性的に腰痛を抱える患者の80%に抑うつ状態がみれ、痛みを感じやすい状態になるという報告があるように、当院でも6月の術前患者64%が BS-POP 高値であり、抑うつ状態になっていると評価した。

心理的要因が、疼痛の重症度、悪化、または持続に重要な役割を果たしているとは判断した。

また、術後 JOA スコアと BS-POP は、右下がりの負の相関図が示されたことから、腰痛が改善すると BS-POP も改善することがわかった。

【結論】BS-POP を有用な判断ツールと用いることは妥当であり、痛みと BS-POP の関係性は認められた。

ただデータが少なかった事実は否めない
ので更なる調査が必要である。